

楨の実特別支援学校の実践について

教職員を対象とした夏季休業中の研修に、地元出身の選手や地域のスポーツクラブの代表などを招いて講習会を開催し、先生方の指導や支援の資質向上を図る取組を実施したことや、今年度整備したボッチャ用具を活用し、特別支援学校の児童生徒が、小・中学校、高等学校との交流を実施したことは、特別支援学校が拠点となって障害者スポーツを地域に広めていくことの意義を強く感じさせられる取組であり、今後ますます期待される内容でした。お互いを理解し合うために、事前交流学习や用具の貸出、交流試合等学習の機会が工夫されていました。パラ陸上選手と交流する学習の場を設けることで、本校の子供たちだけではなく、交流相手校の子供たちの意識を変えていく取組は、これからはとても楽しみであり、「まきのみボッチャ」を今後も更に推進していただきたいと思います。

また、県のイベント、ちばアクアラインマラソンのコース応援とハーフフィニッシュ会場で地域の特別支援学校と協力して実施した、ボッチャの体験ブースは、一般の方々へも障害者スポーツを通して障害者理解を深めるきっかけとなる取組をしていただきました。

今後も「知ろう」「伝えよう」「関わろう」を推進していただくことを期待しております。